

scale 1:43

#09013

release

10/2020

limited edition 333 pcs.



未踏の小道

キャンピングカーの非常に珍しい解釈が、1972年と1973年にトヨタの展示スタンドで発表された。

1972年10月の「東京モーターショー」、1973年2月のオランダフェア「RAI」、1973年4月の「ニューヨーク国際オートショー」での日本メーカーの展示エリアでは、一見とてもスポーティーでフラットなデザインで、長く伸ばされたステーションワゴンのように見えるモデルが目をつけた。全長4.6メートルで、見た目の印象は実寸とかなり一致していた。車両後部には、2つの細長い窓から内部が見えた。同じサイズの窓が車の屋根にも付けられていた。これらの大きな窓の大事な役割は、前部座席の後の2つの側面部分がホイールハウスのすぐ上の側に折りたたまれ、横にヒンジで固定されたときにのみ認識できた。上向きに開いたスペースは、おそろいの布で覆うことができ、トヨタのシャシーに換気の良いテントが形成された。この形の乗用車にこの種の完全に統合されたキャンプ施設がかつて存在しなかったことは、観客の目

にはすぐに明らかとなった。しかし、これは乗用車からキャンピングカーへの外部改造にすぎなかった。折りたたんで蝶番を付けた後、後部に2人の大人の男性が使うことができるサイズのベッドが現れ、2つの前部座席を完全に折りたたむことで夜用のベッドがさらに2つ提供することができた。後部にテーブルを取り付けることも可能だった、そして大事なことは、シートとテーブルを車から取り外すこともできるということだった。さらに洗練された点として、下向きに折りたたむことができる後部ドアは、車からの出入りを容易にするための優れた装置として機能した。多くの観客には残念なことだが、この展示された「フル機能」キャンピングカーステーションワゴンは量産に入るという恩恵を受けることはなかった。

フェアでRV-2の略称で展示されたこの車は、トヨタのマークIIタイプとクラウンタイプのミックスであり、RV-1よりも大きかった。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de